

## 5 歳児保育構想案

草津市立玉川こども園

坂田 初美

### 1. 活動名 立命館大学の留学生と交流会をしよう

### 2. 活動の目標

- ・いろいろな国の文化や言語、風習等について知る。 (知識および技能の基礎)
- ・いろいろな国について興味関心をもつ。 (思考力・判断力・表現力の基礎)
- ・留学生と関わり、進んでコミュニケーションをとろうとする。(学びに向かう力・人間性等)

### 3. 活動によせて

#### 1) 子ども観

本園のある学区内に立命館大学があり、地域には、多く学生や留学生が在住している。園にも外国籍の友だちがいたり、外国からの転入児がいたりするものの、多文化への理解はそれぞれに差があり、園において、留学生とかかわりの場を作ることで、直接触れ合える機会がもてると考えた。留学生との交流の機会をもち、実際に外国のもの(服、食べ物、特産品など)を見たり触れたりし、また直接的な人との出会いやコミュニケーションを通して、興味関心を育む。

#### 2) 教材観

子どもたちの生活の中だけでは、やはり社会とのつながりや、多文化についての理解を深めるということは難しく、いろいろな国からの留学生と出会い、触れあうという直接的な経験の中で学び感じることは価値があると考え。交流をもつことにより、自分たちの住む地域で、いろいろな国の人と一緒に生活しているということを実感でき、子どもたちの学びと理解を深める機会と捉えている。

#### 3) 指導観

子どもたち自身が留学生の出身国に興味をもち、知りたい、話をしたいというような気持ちをもって臨んでほしいと考える。留学生の国の言語や文化等について知り、自分たちの国と文化や生活習慣の違いについても気付けるよう、留学生さんによるプレゼンテーションをお願いし、子どもたちから質問をするという、主体的で対話的なやりとりをしたいと考えている。また、簡単な英語を使用し、自己紹介やゲームなどを取り入れ、留学生と関わることや通じ合える喜びも感じられるよう関わる。

### 4. ESD との関連

#### ○活動を通して養いたい ESD の視点

多様性：いろいろな国によって、言葉や文化、風習があるということを知る。

相互性：留学生との交流を通して、自分と留学生の違いを感じ、受け入れる。

#### ○活動を通して育てたい ESD の資質・能力の基礎

##### コミュニケーションを行う力

自らかかわりをもとうとしたり、聞きたいことや思いを伝えようとしたりする

## つながりを尊重する態度

自分たちと外国の違いを知る

留学生との交流を通して、自分の生活や地域と世界とのつながりを知る。

### ○ESD で育てたい価値観の基礎

#### 世代内の公正

異なる文化や考え方を受け入れ、多様性を尊重する。

### ○達成に貢献できる SDGs

5. ジェンダー平等を実現しよう

10. 人と国の不平等をなくそう

17. パートナーシップで目標を達成しよう

## 5. 活動に至るまでの遊びの流れ



24色肌色クレヨンを使い、自分の顔を描く。みんな違った肌の色、髪の色を表現する。

自分たちの経験から、国旗を見て国の名前を答えたり、国旗を絵に描いたりする。



世界地図、国旗、そして自分たちの顔を描いたものを掲示。  
⇒世界中にもいろいろな国があり、言葉があり文化があり、違いがあるということを感じる。

### <運動会に向けた取り組み>

運動会テーマを「たまちゃん万博」とし、まずは万国旗作りに取り組んだ。入場の際に、使用した。

## 6. 評価規準

ア 知識及び技能の基礎	イ 思考力・判断力・表現力等の基礎	ウ 学びに向かう力・人間性等
① いろいろな国の文化・言語・風習等を知ろうとしている。	① いろいろな国に興味をもち、話を聞こうとしている。	① 留学生に関わり、コミュニケーションをとろうとしている。 ② 自分の国の文化を知ろうとしている。

## 7. 保育指導計画

ねらい：いろいろな国の文化、生活の違いを知ったり、他国に興味をもったりする。

内容：留学生の話を、興味をもって聞こうとし、進んでコミュニケーションをとろうとする。

時間	子どもの姿	環境と援助	評価
10:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊戯室に全員集まる。</li> <li>活動の流れを知る。</li> <li>○留学生を拍手で迎える。</li> <li>○留学生の自己紹介を聞いたり、それぞれの国の衣装や食べ物など持ってきてもらったものを見たりする。</li> <li>○留学生に聞きたいことを質問する。</li> <li>○自分たちの学級に招待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名札もアルファベットで書いたものを貼り、自分たちも日本語以外の文字に触れる。</li> <li>○遊戯室には、留学生の国の国旗や世界地図を用意しておく。</li> <li>○事前に聞きたいことを考えておく。</li> <li>○留学生と手をひいたり、部屋に案内したりするよう声をかける。</li> <li>○うまく言えなくても、相手の顔を見て、自分の名前を伝える姿を大事にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア①</li> <li>イ①</li> <li>イ①</li> </ul>
10:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語で自分の名前を伝える。</li> <li>○いす取りゲームをする。</li> <li>○遊戯室へ戻る。</li> <li>○きらきらぼしを英語で歌う。</li> <li>○歌のプレゼントをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全員で遊べるゲームを提示に、相手の表情を見て遊べるものにする。</li> <li>○ルールを共有し、一緒にゲームを楽しむ。</li> <li>○英語で歌うことで、みんなと一緒に歌えた喜びを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウ①</li> <li>ウ①</li> </ul>
10:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>「てをつなごう」(1番のみ)</li> <li>○子どもからのプレゼントを渡す。</li> <li>○お礼を伝える。</li> <li>○握手をしてさようならをする。</li> <li>○活動を振り返って感想を話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園に来てもらい、いろいろな国の話を教えてもらったことにお礼の気持ちを持つ。</li> <li>○「ありがとう」と気持ちを伝えたり、握手やタッチをしたりしてよいことを伝える。</li> <li>○いろいろな話や遊びを通して感じたことを出しあい、さらに、自分の国の文化についても触れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウ②</li> </ul>
11:10			

いろいろな国の人と話したり、遊んだりすることを楽しむ。

## 8. 振り返り記録



自分たちも胸に名札を貼り、交流会を始める。  
留学生の話に耳を傾ける。

少し緊張した様子の子ども、興味をもって参加した子どもなど、いろいろな思いをもっていたが、始まると昨年度の経験からか、口々に感想や自分の思いを話す様子が見られた。



話を聞いて、自分たちも聞きたいことを質問する。

自分たちの興味のあることに関して、それぞれの国ではどうか？という質問が出た。お菓子のこと、動物に関すること、遊びに関する事などである。



← 実際に持ってきてもらった伝統工芸品を見て、日本にもよく似たものがあることに気が付いたり、考えたりする姿があった。

自己紹介では、「My name is ○○」と自分の名前を伝え、一緒にいす取りゲームを楽しむ。

留学生にいすに座るよう案内したり、自分から名前を伝えたりする姿が見られた。ルールを共有し、自分たちが普段している遊びと一緒に楽しめたことはよかった。簡単なルールの遊びをと考えたが、いす取りは、互いの表情や様子がよくわかり、留学生の姿を気にかけて遊んでいるようだった。



一緒に英語で「きらきらぼし」を歌う。

英語でみんなで歌うということで、事前に練習していたが、留学生も一緒に歌い、一体感を感じることができた。

お礼を込めて歌を歌ったり、伝えたり、握手をしたりして別れる。

「ありがとう」「Thank you」と伝えたり、自分から留学生をハグしたりする姿もあった。「また来てね」というような声も聞かれた。

振り返りをして、自分の感想を伝える。

「楽しかった」「また一緒に遊びたい」というような声が多く聞かれた。話を聞きながら、日本にはあるのかな？日本ではどうか？というように、自分たちの生活や文化と比較をしながら聞いている様子が伺えた。

## 9. 成果と課題

### ○成果

活動当日は、5人（4か国）の留学生が活動に参加してくださった。中国、パキスタン、インドネシア、バングラディシュの国について話を聞くことができた。子どもたちも遊びの中で、万国旗を描いたり、万博に行った経験もあつたりと、国旗や日本との位置関係にも興味をもてた。

また、留学生の話も興味をもって聞くことができ、いろいろな話を聞きながら、「日本とよく似ていること」「日本と全く違うこと」等、比べたり、思い浮かべたりしながら聞いており、話を聞いてそれに対する感想を口にしたり、驚いたりうなずいたりする姿が多く見られた。

また遊びを通して、積極的に関わろうとする姿が見られ、相手の表情を見ながら遊ぼうとしたり、動きを見せたり関わろうとする姿も見られた。単なる言葉でのやりとりや、ものを介したやりとりでなく、一緒に遊ぶという関わりが互いの距離を縮め、相手への興味が芽生えた。年に1回の関わりであるが、5歳児の子どもにとっては、毎年の積み上げもあり、積極的に関わったり、知っていることもあつたりと興味をもって活動に参加できた。

事前に保育内容を検討したこと（質問の内容を考える、きらきらぼしの歌を英語で練習をしておくこと等）を準備したことで、活動に向かう子どもたちの意識が高まった。計画を綿密にすることはとても意味がある。

※留学生からも、就学前のこの時期から自分たちの国以外の国の人やもの、文化に触れることはとても大事であり、多様性を尊重する子どもたちの育成にもつながる、この交流の場があることがすばらしいという感想があつた。

### ○課題

自分の国の文化について問われると、何が日本の文化で他にはないものなのかがわからなかったり、知らなかったりした。具体的に話を進めると、衣装について「七五三で着物を着たよ、お祭りでも着たよ」また、「パンダは中国から来たよ」などと、具体的な話ができ、知っているようで知らないことも多く、友だちの経験を自分の知識にしたり、新たに知ったりするためには、機会を捉えて伝える必要がある。

いろいろな国のことを知る機会になったことをいかし、自分の住んでいる国についての興味の同時に育むことが意図的に必要だと感じた。

日本の生活だけがすべてではないという考え方を子どもたちにも伝えていきたいと思った。